

## オープンキャンパスでのボランティア団体活動紹介

SOPHIA OPEN CAMPUS 2019にて、ボランティア団体の活動紹介を行いました。今年もボランティアぷらっとほーむの企画で学生目線の企画を考案し、クイズやパネルディスカッションなどを交えて、来場のみならずボランティア活動を行いながら学生生活を充実させている「等身大の大学生」の姿に触れていただきました。



2019年8月のボランティア団体伝わる  
**等身大の大学生**  
6日(火)と、7日(水)と、8日(木)と。  
9:30-16:30  
上智大学 四谷キャンパス アクティブ・コモンズ (9号館地下)  
ボランティア団体紹介、クイズ大会、パネルディスカッション、夢スニーカーなど内容盛り沢山！  
★商品情報のチャンス！？※数に限りがございます

- ドン・キホーテ
- アイセック上智大学委員会
- わかたけサークル
- めぐこ -アジアの子どもたちの自立を支える会-
- TFT Sophia
- CeeK
- Sophia Volunteer Network
- 僕らの夏休みProject
- ボランティアぷらっとほーむ



↑ 高校生に、大学でのボランティア活動についてお話ししました。高校1年生から3年生、保護者の方にも興味を持ってお聞きいただきました。



↑ 各ボランティア団体から出題されたクイズには、手を挙げて回答し、積極的にご参加くださいました。正解の方にはボランティアぷらっとほーむ特製のクリアファイルをお渡しいたしました。

## 手話公開講座



今学期も、手話講座の公開講座を実施しました。

この公開講座では、聴覚障害当事者の宇田川先生を講師にお招きし、耳の構造や難聴の種類のお話から、聴こえない方はどのようなときに困りごとを感じるか、など、ご自身の体験を含めながら、お話いただきました。学生からの口頭質問について、通常の講座で講師をなさっている五十嵐先生が手話で通訳される場面もあり、学生たちは実際の手話通訳の一面も目近に拝見することができ、貴重な経験となりました。

## 南三陸ツアー



人口減少は限られた地域だけでなく、日本全体でも将来的な課題となっています。このような現状と向き合いながら地域の活性化のために様々な取り組みをされている宮城県南三陸町を訪れ、地域産業の振興などについて学ばせていただくツアーを開催しました。本年度は11名の学生が参加しました。

1日目は、復興のシンボルでもある「さんさん商店街」で昼食を頂いた後、里山見学や現地の産業についての講話を受け、夜は民泊のご家庭に受入れて頂き、住民の方々の様々なお話を伺うことができました。

2日目は、日本初の二枚貝養殖のASC(注1) 国際認証の取得についての講話。古民家再生と藍染の「おでつて」(南三陸地方の言葉で「お手伝い」の意味)をさせていただき、月に1回開催されている復興市の見学をしました。



南三陸町のみなさん、今年もありがとうございました！



## 活動報告書より

### 【地域/産業を盛り上げるためのポイントについての考察】

#### ①ブランディング

FSC®(注2)などの認証を用いたり、それをきっかけに企業と協同したりすることで、製品や業界への信頼度が増す。「南三陸の」ということで価値が高まる。

#### ②持続可能性

震災で失ってしまった多くの物事や再び震災に見舞われる可能性を踏まえながら、何年後何十年後も続いていく産業/地域のあり方の模索。

#### ③温故知新

これまで行ってきたことを見つめ直して、良いものは良いものとして引き続き行っていくこと。これまで行ってきたことは、現地住民にとって共通言語であり、アイデンティティであり、根幹である。それを大切に整理整頓して大切にしていくことは、新たな施策をする上でもやはり重要事項である。

#### ④課題/変化への挑戦

FSC/ASC認証への道のりは、多くの努力や課題を抱える挑戦だった。しかし、そこに果敢に挑戦することは、QOLの向上や若者の増加などの好影響を呼んだ。VISIONを共有し、コミュニティ全体で協力して、挑戦すること。変化に挑むこと。

[教育学科3年 神谷 碧惟]

注1 : 水産養殖管理協議会 (Aquaculture Stewardship Council) による、環境に負担をかけず地域社会に配慮して操業している養殖業に対する国際的な認証制度。  
注2 : 森林管理協議会 (Forest Stewardship Council®) による、適切な森林管理と、森林管理の認証を受けた森林からの木材・木材製品に対する国際的な認証制度。  
南三陸町は、町内の団体がそれぞれFSC®認証とASC認証を取得。2つの国際認証を取得した団体が存在する自治体は、日本初。

ボランティア・ビューロー窓口には、まだまだ多くのボランティア情報を用意しています！ お気軽に足を運んでください。

## 写真洗浄ボランティア

2019年7月より、四谷キャンパス内で、「写真洗浄ボランティア」の活動を行っています。平成30年7月豪雨災害により、浸水、破損などの被害にあった写真を岡山県真備町よりお送りいただき、エタノール等で1枚1枚汚れを落とし乾燥させ、お戻しします。

実際に岡山県で写真洗浄ボランティアを経験した学生を中心に、東日本大震災以降に写真洗浄の活動を継続している団体「課外のあらいぐま」様にご協力を頂きながら、有志学生で活動を行っています。



## ▼「高校生ボランティア・アワード2019」でも、写真洗浄ボランティアの活動をする学生が登壇！

7月30日にパシフィコ横浜にて開催された「高校生ボランティア・アワード2019」のシンポジウムで、この写真洗浄ボランティアを学内で実現する発起人となった、教育学科4年 仁平 史織 (にひら・しおり) さんが唯一の大学生パネリストとして登壇しました。全国から集まった高校生や学校関係者等、約600名に向け、活動の紹介や、高校生の質問に答えるなど、高校生が将来に向けたボランティア観を広げられるようなメッセージを送りました。

### -シンポジウムでの仁平さんのお話より-

#### ●写真洗浄ボランティアについて

2019年2月に、西日本豪雨災害の被害にあった岡山県真備町にボランティアに行き、その際に写真洗浄を行いました。

その中で、**この活動は岡山県でなくても、東京でもできるのではないかと考えたのです。**そこで帰京後、上智大学のボランティア・ビューローに相談のうえ、活動の許可とバックアップを得て、今は大学の中でこの写真洗浄ボランティアの企画・運営をしています。

**写真は持ち主の方にとって思い入れのこもったものなので、1枚1枚丁寧に扱えるように、写真の扱い方や、自分が参加する学生さんに洗浄の仕方を教える時の伝え方など、色々工夫しながら行っています。**

#### ●高校生へメッセージ

私の所属している教育学科は、先生になる勉強だけをする学科ですか？とよく言われますが、そうとは限りません。

私はいま、教育開発に興味があり、貧困地域に教育をもたらす活動がしたいと考えているので、大学では「フィリピンにおけるノンフォーマル教育」ということを題材に研究をしています。**大学生になると、高校生活に比べて自由な時間がたくさんできるので、その時間を利用して色々な課題に目を向けて活動を行ない、ボランティア活動も含め、ご自身の幅を広げてほしいと思います。**



**写真洗浄のボランティアに興味がある方は、ぜひ一緒に活動しましょう！**  
開催の案内は、Loyola掲示板 (ボランティア) の他、ボランティア・ビューロー関連のSNSでも随時発信しています。  
その他のボランティア関連の情報も発信していますので、ぜひ、ご登録ください！

#### ◆ボランティア・ビューローtwitter

@Sophia\_Volante

#### ◆上智大学公式LINE@

@Sophia\_line

(※登録時に希望する配信内容の「ボランティアについて」にチェックを入れてください)



## 飯舘村交流2019

今年で6年目となる、恒例の飯舘村交流を8月に実施しました。9名の学生が福島県飯舘村を訪問し、飯舘中学校の学習支援・部活動支援などで交流しました。今回の参加者はこれまでも参加経験のあるリピーター学生が多く、中学生のみなさんとの久しぶりの再会となりました。



↑築100年を越える立派な古民家で、地元のお母さま方の美味しいお料理でおもてなし頂きました。



↑学習支援の様子



↑部活動支援の様子



↑最終日の別れに、名残を惜しみ合う中学生と大学生

## 活動報告書より

今の飯舘中学校に対する生徒の思いや要望、不満を聞くことができたのは印象深かったです。飯舘中の先生とのやり取りでは出てこなかったであろう中学生の本音を知ることができたと思います。例えば、交流活動やテレビの取材が多いことに対して、ある生徒は「普通の中学校生活を送りたい」と言っていました。震災から8年が経過した今、もちろんあの震災を風化させないことは大切ですが、今飯舘村で生きる中学生は「被災地の中学生」ではなく「普通の中学生」であるという視点もまた大人たちは忘れてはいけないと考えさせられました。

[社会福祉学科4年 細井 愛未]



飯舘中学校のみなさん、ありがとうございました！

## ▼ソフィア祭で、「福島もりあげっ課」を開催！



飯舘村交流2019に参加した学生と、福島県川内村でボランティア活動を行っている学生たちがタッグを組み、本年度のソフィア祭にて、飯舘村・川内村の美しい景色を楽しみながら休憩頂ける教室企画を行ないました。お立ち寄り頂いた方には、福島県南部の郷土菓子、凍み餅（しみもち）とそば茶をご試食いただきました。凍み餅はもちり優しい美味しさで、荳胡麻をベースにした甘じょっぱい「じゅうねんだれ」がよく合い、好評でした。



↑ご提供した凍み餅とそば茶。リーフレットと凍み餅の説明書きは学生の手作りです。



↑飯舘村で実際に上智大学生たちが撮影してきた写真をパネルで展示。



↑「素敵な写真を見ながらほっと一息つきました」「福島県を訪問したことがなかったので、情景が新鮮でした」など、たくさんのコメントを頂きました。

ボランティア・ビューロー窓口には、まだまだ多くのボランティア情報を用意しています！ お気軽に足を運んでください。

## 防災WEEK2019

10月14日から18日にかけて、今回で5回目となる防災WEEKが本学の課外活動団体Sophia Volunteer Network (SVN) の主催で行われました。

この企画は2019年度春学期上智大学復興支援助成金制度に採択された活動で、SVNの学生たちが、東日本大震災や熊本地震への被災地支援をしてきた教訓として、学生や教職員に防災の意識を広めることと、被災地への関心の風化防止のために企画したものです。

期間中の昼休みには、メインストリートにて地震体験車やVR車、煙ハウスでの災害疑似体験を提供しました。

また、水害の被害の一つに、大切な写真が泥水で汚れてしまうことがあります。今回の防災WEEKでは参加者を募り、昨年の西日本豪雨で被害にあった写真の洗浄ボランティアを行いました。泥水で汚れた大切な写真を一枚一枚丁寧に水で拭きとり、消毒しました。

最終日には段ボールで作成した簡易ベッドなど被災時に役立つグッズの紹介や、非常食の試食を提供しました。

また、期間中、台風第19号災害義援金への募金の呼びかけを行い、30,243円を募る事ができました。自然災害を自分事としてとらえるとともに、自分のためにもそして他者のためにも、自然災害に対する意識を向上させる機会となりました。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



VR車による災害の疑似体験



写真洗浄ボランティア



外国人留学生も多く参加した地震体験車



総額99,883円を日本赤十字社を通して被災者の方々の義援金として募金させていただきます。

ご協力誠にありがとうございました。



## 災害復興支援ボランティアの 交通費補助対象地域・補助回数が拡大しました

※2019年12月1日以降の活動から適用

上智大学では、復興支援ボランティア活動実施者に対して、ボランティア活動支援として交通費補助をしております。希望する方は、以下の要領で申し込んでください。

### 1. 交通費の補助対象

以下の団体が運営するボランティア活動への移動交通費を補助対象とする。

- ① 自治体、社会福祉協議会、認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）が主催する活動
- ② 上智大学ボランティア・ビューローが認めた活動

### 2. 補助の内容 ・交通費の補助対象は公共交通機関のみとする（レンタカー等は対象外）

活動場所	往復交通費補助金上限	
東北エリア	岩手県	¥15,000
	宮城県	¥15,000
	福島県	¥15,000
関東甲信越エリア ※1	栃木県	¥3,000
	千葉県	¥3,000
	茨城県	¥5,000
	長野県	¥5,000
中国エリア	岡山県	¥28,000
	広島県	¥29,000
九州エリア ※2	熊本県	¥35,000
	福岡県	¥35,000
	大分県	¥35,000
	佐賀県	¥35,000

※1 原則、四ツ谷駅を起点とした現地までの在来線（公共交通機関）の規定額（IC）を補助対象とする。

※2 九州4県復興支援は、羽田又は成田ー熊本・大分・福岡・佐賀間の飛行機代に限る。

### 3. 補助の上限回数

年度合計10回（地域は問わず）

### 4. 交通費補助の申請方法



- ① 受け入れ団体への申し込み、ボランティア保険への加入
- ② 学生センター窓口にて事前申請の手続き
- ③ 現地にて活動
- ④ 学生センター窓口にて事後申請の手続き
- ⑤ 活動報告会の参加

◎ 手続きの詳細・各種申請書類については、

Loyola ボランティア掲示板の【手続き方法と申請書類】様式ファイルにあるのでご確認ください。

※申請書類が変わりましたので、必ず最新の書式をご利用ください。